



令和3年10月5日
経済観光文化局文化施設課
住宅都市局みどり政策課

市政記者 各位

拠点文化施設及び須崎公園の整備について（お知らせ）

福岡市拠点文化施設整備及び須崎公園再整備事業におきましては、須崎公園の樹木 397本のうち、101本を現在の場所で、217本を移植により残すことといたしました。

なお、病害虫の被害などにより移植困難な79本の樹木につきましては、公園のベンチなどに形を変えて活用することといたします。

本市は、（一社）福岡県樹木医会による調査結果（別紙参照）を受け、須崎公園の樹木を基本的に残す方針に基づき、できる限りの対策を講じることによって、調査結果の「A」「B」「C」と評価された計151本の樹木は全て移植を実施することとし、加えて「D」と評価された樹木145本についても、支障となる構造物を取り壊すなどの工夫による移植（66本）を行うことで、合計217本の樹木を移植することといたしました。

拠点文化施設の整備にあわせ、須崎公園においては、既存の樹木の保存や移植に加え、新たな樹木も植えることで、合計700本を超える樹木が溢れる、これまで以上にみどり豊かな都市空間を創ってまいります。

【須崎公園の再整備イメージ】



※現時点での将来イメージであり、変更になる場合もあります。

<問合せ先>

【拠点文化施設について】	経済観光文化局文化施設課	西尾	TEL 092-711-4931
【須崎公園について】	住宅都市局みどり政策課	中村	TEL 092-711-4446

須崎公園の樹木調査結果について

令和3年10月5日
 一般社団法人 福岡県樹木医学会
 代表理事 森 陽一

<樹木調査結果>

それぞれの樹木の移植の難易度について、移植しやすいものを「A」、困難（不可を含む）なものを「D」とした、4段階で評価している。

評価	評価の考え方	本数
A	樹体や根鉢に重要な欠陥はなく、移植後に活着する可能性が高い樹木	49本
B	樹体や根鉢に欠陥があり、移植後に活着する可能性が中程度の樹木	43本
C	樹体や根鉢に一部重要な欠陥があり、移植後に活着する可能性がやや低い樹木	59本
D	1. 外部運搬が可能な幅2.5m以内では、十分な根鉢径を確保することができず、移植後の活着が見込めない樹木 2. 剪定が不可能で、外部運搬が可能な長さ12m以内に樹高がおさまらず、運搬ができない樹木 3. 著しい根上がり、構造物等との近接などにより根鉢が確保できず、移植後の活着が見込めない樹木 4. 根が疎らで発根が少なく、樹木特性として移植難易度「難」で、移植後の活着が見込めない樹木 5. 樹勢不良又は、腐朽や空洞等の著しい被害があり、移植後の生育が見込めない樹木 6. 腐朽菌等の病害、シロアリ等の虫害が顕著で、移植後に周囲の樹木や家屋に影響を与える可能性がある樹木	145本
調査本数合計		296本

※移植先は、公園外を想定

<須崎公園の樹木について>

「A」と評価した樹木は、イチヨウ、クロガネモチ、クスノキなど、養分の吸収などに必要な細根の発達が顕著で移植容易な性質をもち、樹勢が良好であり移植後に活着する可能性が高い樹木49本となった。

「B」と評価した樹木は、クロガネモチ、クスノキなどが多く、樹木同士の距離が近く根鉢の確保がやや困難、若干の樹勢衰退がある等で、移植後に活着する可能性が中程度の樹木43本となった。

「C」と評価した樹木は、クロガネモチ、クスノキなどで、樹勢の衰え、根上がり、腐朽や空洞等があり、移植後に活着する可能性がやや低い樹木59本となった。

「D」と評価した樹木は、サワグルミ、サクラ、ワシントニア等で、著しい根上がりや既存施設に接近するなど物理的に根鉢の確保が困難なもの、重篤な病害虫の被害や腐朽、空洞があるもの、樹形が著しく損なわれているものなど145本となった。

「D」が多い要因は、多くの樹木に見られる根上がりにある。根上がりは移植時の根鉢の確保が困難となるだけでなく、踏圧等で露出根が傷み、樹勢低下や根株腐朽等の原因にもなる。調査対象木の根元の表層厚を鋼棒で調査した結果、根が侵入可能な表層土は20~50cmで、その下は根の侵入が困難な強固な層であったため、表層の薄さが根上がりの原因であると考えられる。さらに、樹木が密生したエリアでは、樹木同士が光を求めて競合した結果、大枝や幹の枯れ、樹皮欠損等が発生し、これらから病虫害、腐朽や空洞へと発展したケースが多く見られる。以上により、「D」が多くなった根本的な原因は「表層土の薄さと樹木の密生」にあるものと考えられる。